

ふれあい

2019.1.15
No.216

発行：ふれあい編集委員会 〒220-0011 横浜市西区高島 2-6-32 善仁会グループ TEL:045(453)6772 www.zenjinkai-group.jp/zenjinkai



特集

透析患者さま
生活支援への取組み



善仁会グループからの
各種情報はこちらからも
ご確認ください。

年頭にあたって



明けましておめでとうございます。

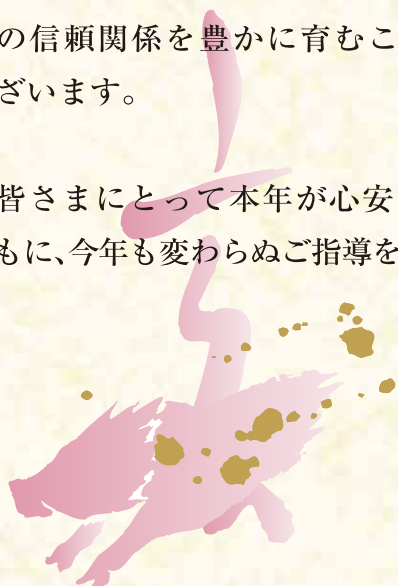
皆さまと穏やかな新年を迎えられましたことをお慶び申し上げます。

善仁会グループが透析医療の道を歩み始めて本年で45年目を数えます。新年を迎え、私共のこれまでを振り返ってみますと、今日までの道のりを明るく照らし導いてくださったのは、同じ透析医療の道を歩む諸先輩方、日々お世話になっている関係各所の皆さま、そして何より一人ひとりの患者さまでありました。改めて厚く御礼申し上げます。

昭和49年4月に開院した丸子クリニックを端緒とし、平成の時代を超え、新たな元号となる本年を迎えました。私たちは変わることなく「思いやりの心」を理念に掲げ、心のかよう医療の実現に努めてまいります。

本年は己亥、猪の年です。猪突猛進という言葉の通り、突進力・勇気・勇敢、また豊穰などを示すとも言われるようです。私たちは医療の質のさらなる向上にむけ、グループ一丸となって邁進するとともに、福祉の分野も含めた関係各所とも緊密に連携し、これまで以上に患者さまの支えとなれるよう努力してまいります。そして何より目指すものは、患者さまをはじめ関わる全ての皆さまとの信頼関係を豊かに育むこと。そして「心のかよう医療・福祉」の実践でまいります。

皆さまにとって本年が心安らかな一年でありますよう祈念いたしますとともに、今年も変わらぬご指導を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。



善仁会グループ

会長 千葉 哲男

特集

透析患者さま生活支援への取組み

～善仁会グループの、透析患者さま生活支援の取組み～

「透析患者さまトータルサポート管理センター（TOS）」とは？



TOS(トス)の概要

「透析患者さまトータルサポート管理センター（通称TOS：トス）」は2012年6月1日に設立され、ケアマネジャー・社会福祉士・コーディネーター（看護職）の3職種がチームとなり活動を始めて今年で8年目を迎えます。

TOSには、透析施設をはじめ医療機関や地域包括支援センター、ケアマネジャーの方々、患者さま・ご家族などからの直接のご相談を日々いただいております。主な相談内容として、設立当初は

「介護保険って何？」

「どのように活用すればよいのか？」

「ケアマネジャーって何をする人？」

というものが多く、歳月と共に医療機関からの転院や退院後の在宅生活調整、透析通院手段や生活環境の見直しなどへと相談内容も変化しております。

これまでの実績として、約2,000件の相談問

い合わせ、180施設との医療連携や40施設の有料老人施設へ繋ぎ合わせなどがあります。

これは、善仁会グループの患者さまの平均年齢が67.9歳、65歳以上の高齢者の割合が64.3%、75歳以上の後期高齢者の割合が34.8%と高値であることから、今後も同様の相談が増えていくことが予想されます。

私どもは、できる限り患者さま・ご家族に寄り添いながら、地域の社会資源との連携や人との繋ぎ合わせのお手伝いをさせていただけるよう日々精進して参りますので、お気軽にご相談をいただければと願っております。



透析患者さまトータルサポート管理センター 一同

～受持ち看護師より～

「透析患者さまトータルサポート管理センター」利用事例

事例1

「独居」「老々介護」「ご家族の介護負担が大きい」などケースは様々ですが、患者さま、もしくはご家族に、何かお困りになることが起きると私たちはすぐにTOSへ連絡・相談し、適確な助言をもらうようにしています。

実例として、「自分たちでできることはやりたいのに、過度のサポートをされ、ストレスがたまると患者さまのご主人が介護サービスを断ってしまい、夫婦2人の生活および患者さまの通院透析の両立が困難になってしまったケースがありました。その際、TOSが仲介し、看護師と家族、ケアマネジャー、介護サービス事業所担当者をつなぐ「要」の役割をいたし

二俣川第一クリニック
看護部 主任 中西 和美



ました。同じ場所に集まり、顔を合わせることでそれぞれの思いを共有し、迅速な対応をTOSが行いました。その結果、ご夫婦にとって納得のいく介護サービス提供が実現され、患者さまは現在も通院透析を継続されています。

介護相談、介護申請の相談をはじめ、TOSは私たち看護師にとってなくてはならない頼りになる存在です。患者さま、ご家族の思いを大切に受け止めTOSと共にサポートができることや、諦めずに患者さまに寄り添い、関わり続けることの大切さを日々学んでいます。

～本ケースの場合～
TOSはこのように対応します!



二俣川第一クリニックからは、今までに約60人の患者さまのご相談を受けさせていただいておりますが、今回のケースは「服薬管理が困難」という報告がきっかけでした。まず、TOSはその患者さまを知るための情報を集めることから始めます。中でも病状が変化していく患者さまの看護の視点からの情報提供はとても重要です。

その情報をもとにご家族・ケアマネジャー・介護サービス事業所担当者・包括支援センター職員・ソーシャルワーカーなどとの多職種連携を開始し、課題を見つけしていきます。その課題を解決するための手段であるクリニックでのカンファレンスは、顔の見える関係づくりと、ご本人・ご家族の皆さまが多くのサポーターの存在を実感される場となります。そうして、その後の情報共有と連携がよりスムーズになっていき、ご本人・ご家族が安心して他者を受け入れられたことが、現在の、ご意向に沿った生活と安全な通院透析につながったのだと思います。



事例2



かもい腎クリニック
看護部 主任 植木 里美



私たち善仁会グループには、「透析患者さまトータルサポート管理センター(TOS:トス)」という部門があります。私たちは、患者さまのご自宅での生活が、一日でも長く維持できるよう、日頃から些細なことでもTOSと情報共有するように心がけています。

今回ご紹介させていただく事例は約2年前のものです。もともと目の不自由な患者さまでしたが、ご家族のサポートを得ながらご自宅で生活をされていました。ある時、突然ご家族が入院され、その患者さまがサポートを得られない状況に陥りました。患者さまへ介護保険のご利用を提案しましたが、患者さまおひとりで申請に行くことが困難なため、TOSへ連絡し代行申請を依頼しま

した。結果、スムーズに介護保険を利用できることになり、ご自宅での生活を継続できるようになりました。患者さまは2年経った今でも、必要なサービスを受けながら元気に外来透析に通われています。「あの時いろいろしてもらえたことで、今でも元気でいられて、『何かあったら何でも相談してくださいね』と言ってもらえる。それが一番安心で心強いです。」とのお言葉を頂戴しました。

私たちは今後も患者さまの些細な変化に目を向け、患者さまやご家族の皆さまがご自宅での生活でお困りにならないようTOSと連携していきたいと考えています。

～本ケースの場合～
TOSはこのように対応します!



かもい腎クリニックは、善仁会グループの中で唯一の有床診療所です。院長をはじめ、看護師、スタッフとTOSとの連携はとても強く、入院面談の同席、外来透析患者さまの介護相談、介護保険の代行申請、施設調整など多岐に渡ります。その中で、介護保険の代行申請は、ご高齢の患者さまとそのご家族の皆さまのお手をわずらわすことなく、介護相談と併せてご利用いただいております。

昨今、外来透析の患者さまも高齢化のため、通院透析の不安を抱えておられる方も多くいらっしゃいます。クリニックの看護師が窓口となりTOSへ依頼され、介護相談に至ります。その中で得られる社会的背景、医療的な面も含め全人的な視点でお一人おひとりの個別性に合わせた相談業務を心がけております。今後も「すべては患者さまのために」という想いで連携させていただきたいと思っております。





福生駅前クリニック
看護部 主任 **武田 千春**



介護保険制度が実施され、今では介護サービスは身近なものとなりました。今回、介護保険未申請だった患者さまの代行申請を行い、要介護2の認定となったケースを紹介いたします。

Mさま80代男性、通院はクリニック送迎を利用されています。自宅は敷地内にご息女宅があり、Mさまはおひとり住まいです。ドライバーが迎えに行ったところ、待ち合わせ場所にMさまがいらっしゃらなかったため、看護師と一緒に訪問を行ったことがありました。電話でご息女にお話を伺うと「歩行が心配だけど毎回付き添うのはむずかしい。何をどうしたら良いのか」とのことでした。そこで、TOSに

相談、後日クリニックでご本人・ご息女・看護師で話し合い、TOSに介護保険の代行申請を依頼し、サービス利用することになりました。はじめは「自分でなんでもやりたいんだけどね…」とおっしゃっていたMさまには、できることはご自身でやっていただいて、不安なところだけを少しお手伝いする30分の通院介助サービスとし、そのご利用について「助かっています」とのお言葉をいただきました。

これからも患者さま中心にチームを組み、一日でも長く住み慣れたご自宅での生活が継続できるよう支援させていただきたいと思っています。

～本ケースの場合～
TOSはこのように対応します!



クリニックの担当看護師から電話でTOSに相談があり、クリニックを訪問してMさま、ご家族、看護師と介護相談を行いました。透析通院上の困りごとや自宅生活での困りごとを伺い、介護保険のサービス利用で解決できる部分や負担を軽減できる内容をご説明いたしました。介護保険認定後、改めて話し合いをし、安全に透析通院ができるように介護保険を利用した送り出し・迎え入れのヘルパーを導入、自宅内環境整備などを行わせていただきました。独居への不安も大きく、閉じこもりがちで入浴があまりできていない、また筋力低下も心配されたため、デイサービス通所も利用することになりました。自宅での不調の訴えがあった時はクリニックに相談し、他科受診へ繋いでいただきました。

今後ご本人・ご家族に寄り添いながらクリニックや関係機関と密に連携し、患者さまが安心して在宅で暮らせるよう支援をさせていただきたいと思っております。

TOSへのご相談・ご連絡はこちら!



総合相談窓口

透析患者さまトータルサポート管理センター (TOS)
TEL:045-453-6762



～患者さまご家族より～ TOSをご利用されて

患者さまご家族
(匿名希望)

主人の父(義父)は、通院に車いすが必須でした。通い介護の状態、私が義父に付き切りになれないため受持ち看護師に相談したところ、TOSのパンフレットをいただき、連絡を取らせていただきました。義父は嚥下に問題があり、食事をうまく摂れません。また義父の奥さま(義母)と一緒にいないと生きる気力がなくなり、食事もしなくなるため、私たちは義父たちが夫婦で入れる施設を探していました。運よく、有料老人ホームに2名分の空きが出るも、透析患者の送迎はできない、と断られてしまいました。

途方に暮れていたところ、TOSのコーディネーター(看護職)の方に再度相談すると、クリニック側で施設～クリニック間の送迎を行ってくれることになり、入所できることに。

義父の家族として、できる限りの自宅介護ができたという思いがあります。TOSを介した善仁会グループの医療と介護のネットワークにより義父の望む形で施設に入所することもできました。本当に感謝です。

患者さまご家族
(匿名希望)

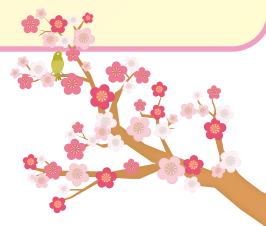
ひとり暮らしをしていた弟が糖尿病から透析へ。当初は自力で通院しておりましたが、今年の夏が暑かったこともあったのか歩行時にふらつくようになり、たびたび転んではアザを作り、通院先の井土ヶ谷腎クリニックの看護師からは「どうされたのですか?」と連絡を受けるようになりました。弟は見る見る自己管理がままならなくなり、会話の受け答えも安定しないことが増え、独居がむずかしい状態に。

看護師の方は、真剣に相談に乗ってくださり、そこでTOSの存在を知るに至りました。TOSのコーディネーター(看護職)とは諸々の相談をクリニックに来ていただいていることもあれば、TOSに私が出向くことも数度。現在、弟はサービス付き高齢者住宅に入居することができ、最寄りの善仁会のクリニックへ送迎していただいております。

私も高齢であり、弟を見切れないう心の負担が取れたように感じております。おかげさまで手厚い保護のある良い施設に入ることができ、弟も穏やかに過ごすことができているように思います。

今年もよろしくお願いたします

2019



第40回 善仁会研究報告会

第40回目の開催を迎えた善仁会研究報告会が、11月25日(日)、そごう横浜店・新都市ホールにて開催されました。東邦大学医療センター大森病院 腎センター 酒井謙教授による特別講演(演題：平成30年診療報酬改定と今後の腎不全医療)をはじめ、善仁会グループの腎部門・健診部門、老人医療福祉部門のスタッフ



東邦大学医療センター大森病院
腎センター 酒井 謙教授



大会長 大山 邦雄
(横浜第一病院 院長)

から、ポスター発表2演題を含む合計21演題が発表されました。

研究報告会は、グループ全体の各部門、そして職種間の垣根を越えて各施設・各職種の課題などについて深く知ることができるとともに、日頃の研究成果や観点を発表することができる貴重な機会です。様々な職種が情報共有を行うチーム医療、そしてグループ全体の医療をより深い深度で共有し、高めていく意味でも、非常に意義のある会でもあります。総勢約700名が聴講・発表に参加し、会場からは発表者への質疑なども活発に行われていました。



約700名の参加者が、各部門・各職種からの発表に耳を傾けました

「お写真」
「透析川柳」
募集!

「ふれあい」では皆さまからのお写真のご投稿、またサラリーマン川柳ならぬ「透析川柳」のご投稿をお待ちしています。ふるってご応募ください!

- 投稿送付先：〒220-0011 横浜市西区高島2-6-32 6階 善仁会グループ本部 広報室あて
- ※または各施設スタッフに「ふれあい投稿」としてお渡しください
- ※ご投稿いただいた作品は返却いたしません。ご了承ください



冬空に イルミネーション キラキラと (宮崎)

吉祥寺あさひ病院バスキュラーアクセスセンター

平成27年10月より、吉祥寺あさひ病院院内に、バスキュラーアクセスに専門的かつ総合的に対応するセンターを開設いたしました。

吉祥寺あさひ病院バスキュラーアクセスセンターは長期に安定したバスキュラーアクセスの作成・維持を使命として、充実した設備と医療技術のもと、透析患者さまのバスキュラーアクセスの迅速な診断・治療・維持に取り組んでまいります。



吉祥寺駅北口から徒歩3分です

診療時間 9:00~16:00

休診日 水曜・日曜

予約制 バスキュラーアクセス外来の診療は予約制となっております。ご来院前にお電話でお問い合わせください。(緊急を要する場合は別途ご相談ください。)



センター長
野口 智永

	平成28年度	平成29年度
シャント作製術(初回)	65	55
シャント作製術(再建)	43	44
人工血管移植術	27	62
動脈表在化術	14	13
PTA	379	529
その他(瘤切除・血栓除去等)	36	54
4~3月症例実績	564	757

電話: 0422-22-1120 FAX: 0422-22-1080

受付担当
バスキュラーアクセス予約係

神奈川県・横浜第一病院でのバスキュラーアクセスのご相談については、
【専用電話：045-453-6709 / FAX：045-453-6701】にて承っております。